

解消するために体中のほとんどの羽を抜いてしまう「毛引き行動」へと繋がるかも知れません。

飼い鳥がそのように一度病気になる、日本では医療的治療を受けるのが困難です。なぜなら、日本では専門的に鳥を診察できる獣医師が少ないからです。よって、鳥の飼い主は少なくとも見当として万が一鳥が病気になったら病院へ連れて行くことができるのかを考えておく必要があります。またそれは、家に鳥を迎えることになる以前に見つけておくことが大切です。理由は、鳥は野生において天敵の標的となるのを避けるため、病気やケガを隠す傾向があります。自分は健康であるという「フリ」をするのです。その結果、飼い主が何かしらオカシイと気付くときには、既に重篤な状態である、ということになります。そういう理由で、家に鳥を連れて帰る前に、鳥を適切に診てくれる獣医師を先にみつめておくことが大切になります。

既に鳥を飼うことは犬や猫を飼う事よりも難しいことであることに気付いている方もいらっしゃると思います。なぜなら鳥はガラスのハートを持ったとても賢い動物だからです。多くの鳥はとても臆病です。簡単にパニックに陥ります。一方で、お世話をしてくれる人からの多くの愛、注目、愛情を必要とします。「鳥は永遠の3歳児」と言われます。多くの飼い鳥が彼らの飼い主を愛し、絆を深めます。人間を彼らの”仲間”と考えるのです。

もし貴方の多くの時間を鳥たちに捧げられないのであれば、鳥は貴方にとってペットとしての選択肢ではないでしょう。今日は、埼玉県にある特定認定NPO法人のTSUBASAについてもご紹介したいと思います。TSUBASAはこの国で唯一の鳥の保護施設です。彼らは様々な理由により手放された飼い鳥たちのレスキューと保護を専門に行っています。最近特に増えているケースは、飼い主の高齢化により身体的に飼う事が出来なくなって、というものです。施設では、必要とあれば獣医師によって医療的な治療も提供され、時間をかけてリハビリが行われます。もし保護された鳥達が心身ともに健康になれば、新しい生活のために里子リストに掲載されます。残念ながら、いくらかの鳥達は困難のためにその施設で一生を過ごす子もいます。現在、施設では140羽の子たちが暮らしています。

同時に、いくらかの鳥達は新しい飼い主のもとでよりよい環境の中、多くの愛と愛情を受けながら新しい生活を始めます。ちなみに、ここの鳥の里親になるには、幾つかの厳しい審査に通ることが必要です。その主旨は、「鳥が飼い主を選ぶ」。よって、里親になって好きな鳥を連れて帰れるというわけではないのです。この組織では、飼い鳥のさらなる良いウェルフェアを向上させるために、飼い主に鳥を知るための教育的講座やセミナーなどを開いたりもします。

最後に、「鳥飼いのための十戒」をみなさんと分かち合いたいと思います。これに似たものを以前読まれたことがあるかも知れません。この「鳥の十戒」がベースとなって、他の様々な動物のための十戒が出来ました。「鳥」の部分をお貴方が飼っているペットに置き変えて読むと、何か響くものがあるかも知れません。

### 「鳥を飼うための十戒」(オウム編)

1. 私は20年かそれ以上生きています。どのような別離であれ、貴方から離れる事はわたしにとって辛いことです。私を家に連れて帰る前に、それを思い出して下さい。
2. 貴方が私にして欲しい事を理解するために時間を下さい。
3. 私を信じて下さい。それは私の幸せにとっても重要です。
4. 長い間私に対して怒らないで下さい。そして、罰だと言って閉じ込めないで下さい。貴方には仕事があります。娯楽もあります。友達もいます。でも、私には貴方しかいません。
5. 私に話しかけて下さい。貴方の言葉は分からなくても、私に話しかけている声は分かります。
6. どのように貴方が私を扱っても、私は決して忘れません。
7. 貴方が私を叩く前に思い出して下さい。私は貴方の手の指を簡単に砕く事ができるくちばしを持っています。けれど、私は貴方を咬まないことを選びます。
8. 貴方が私を非協力的だ、強情だ、怠け者だと怒る前に、何かが私を悩ませているのではないかと自分に問いかけてみて下さい。もしかしたら、私は調子が良くないか、あるいはケージの中に長時間閉じ込められていたのかも。
9. 私が年老いても世話をして下さい。貴方も年を取ります。
10. 私が旅立つ時、一緒に居て下さい。「私には見てもらえない」とか「私が居ない時に逝って」とか言わないで下さい。もし貴方が一緒に居てくれるのなら、どんなことも平気です。忘れないで。貴方を愛しています。

— ジェーン ホーランダー —

この十戒を、いつか鳥を飼おうかなと思い始めたときに思い出してくれると嬉しいです。なぜなら、その鳥を幸せにしてあげられるかどうかは全て貴方次第なのですから。



オオバタンのトキちゃん。お腹や翼の内側の羽を自分で抜いてしまう『毛引き』をします。痛々しいですが、これでも随分と保護された当初よりも良くなりました。His name is "Toki chan". A Moluccan cockatoo. He has "feather-plucking" behavior. He plucks out his own feathers around his stomach and inner wing areas. It is a heartbreaking picture but he looks much better than the time he was sheltered by TSUBASA.



9月4日に高知県で開催された「BLA 3級講座」。鳥の飼い主たちが、より良い飼い主になるための講座を全国でTSUBASAが開催しています。BLA (Bird Life Advisor) 3rd Level Class was held in Kochi city on September 4. About 40 bird owners gathered to study about becoming a better "bird keeper" for their loving pet birds.